



医療機関で特定健診を受診しましょう

国民健康保険(国保)に加入する40〜74歳の人は、特定健診を受診できます。本年度まだ受診しておらず、今後希望する場合は、町民福祉課に申し込んでください。

■実施する医療機関(一関地域)

- ▽アビエスかんのクリニック
▽阿部内科クリニック
▽一関中央クリニック
▽岡崎整形外科
▽桂島医院
▽木村消化器内科
▽西城医院
▽齊藤産婦人科医院
▽佐藤循環器内科医院
▽産婦人科野田
▽昭和病院
▽千和クリニック
▽そばた脳神経クリニック
▽千葉内科医院
▽寺崎内科胃腸科医院
▽中里クリニック
▽中野内科循環器科クリニック

■実施期間

令和5年2月28日(火)まで。医療機関によって、健診を実施

する曜日や受付時間が異なります。詳しくは、個別健診の申込受付後、町民福祉課から受診票と併せて送付する健診医療機関一覧を確認してください。

■申込方法

町民福祉課に直接または電話で申し込んでください。

■受診方法

申込受付後、個別健診用の受診票を町民福祉課から送付します。受診票を受け取り次第、希望する医療機関に直接予約してから受診してください。

■健診当日に必要なもの

国民健康保険被保険者証、特定健診受診票、自己負担金(500円)

■問い合わせ先

町民福祉課 ☎46-5562

森林の伐採・開発の際は手続きが必要!

森林を伐採・開発する際は、事前に届け出や許可申請の各種手続きが必要です。

森林内での伐採や開発の計画がある場合は、以下の問い合わせ先に相談してください。

■問い合わせ先

▽保安林以外の森林での立木の伐採

伐採

農林振興課 ☎46-5564

▽保安林での立木の伐採や土地の形質の変更

▽保安林以外の森林での1畝を超える開発行為

一関農林振興センター ☎26-1893

江戸時代の「下田焼」を文化遺産センターに展示します



「下田焼遺跡」の位置図(国土地理院HP国土基本図に加筆)



下田焼遺跡遠景(南から)



大福帳など(もりおか歴史文化館所蔵)



下田焼の甕

発掘最前線 平泉を掘る

江戸時代の焼き物 下田焼(長島焼)

江戸時代の終わりごろ、全国各地に生活用具として使う陶器を焼く窯が造られました。その一つが長島字下田の陶器窯「下田焼」です。

「瀬戸屋」と呼ばれた窯元に伝わる1851(嘉永4)年の大福帳などには製品の種類や値段、取引先などが記されており、明治の始めまで甕やすり鉢、皿、火鉢などさまざまな製品が作られました。販路として、

て、東・西磐井郡や水沢・黒沢尻の間屋と取引があり、当時の人々の生活に密着した焼き物だったことが分かります。高さ約80センチある下田焼の甕は、12月から文化遺産センターで展示します。

平泉など4市町合同婚活イベントの参加者を募集します

平泉町と一関市、宮城県栗原市、登米市(4市町)が主催する婚活イベント「トキメキ! Winter恋する学校」が、令和5年1月29日(日)に宮城県栗原市で開催されます。

- 対象者...20、30代の独身者(男性は平泉町を含む4市町在住者。女性は居住地を問いません)
■日時...令和5年1月29日(日) 10:00~16:00
■場所...栗原市教育研究センター(栗原市金成沢辺西大寺1-5)
■内容...わら細工ワークショップ、栗原市の野菜を使ったスイーツ作りなどを予定しています。詳しくは、下記のQRコードから確認してください。
■費用...男性5,000円、女性3,000円(友人2人で申し込んだ場合は男性4,000円、女性2,000円)
■申込締切...12月16日(金)
■その他...原則、事前セミナー(1月14日、栗原市内で開催)の参加が必要です。

■問い合わせ先(事業受託者) 株式会社グラフィック・トイ(仙台市青葉区) E-mail:info@4shimachi.com



QRコード



婚活イベント「トキメキ!! Winter恋する学校!!」のポスター

情報 道の駅平泉 知っ得

問い合わせ先...道の駅平泉 ☎48-4795



りんごカスタード味 大判焼き

平泉の「大文字りんご」さんのりんごを使った大判焼き「りんごカスタード」の販売を今季も始めました。品種は藤原ロマン、ふじです。

りんごのしゃきとした食感と酸味が、甘いカスタードクリームと良く合います。リピーターの多い商品です。

■価格(税込み) 180円

「今秋の町産米を使った「どぶろく」をぜひどうぞ!」
今秋収穫された町産米を使っただぶろくの販売が、道の駅平泉で年末ごろから順次始まります。町産米でどぶろくを醸造する「どぶろく」(平泉字上野台)では、新米を使ったどぶろくの醸造が進み、11月21日は工房で蒸したコメをもろみにするための工程が行われました。



令和4年産の町産米を使ったどぶろくの醸造が進む「どぶろく」。年末をめぐり、道の駅平泉でも販売が始まります

さん(10区)、佐藤美津子さん(5区)姉妹は「若い世代の人たちにも、町産米を使ったどぶろくを味わってほしい」と語ります。